

児童が疑問をもてるようにするための手立ての考察

—段階的な調べ学習と ICT を活用した疑問の共有—

教育実践高度化専攻 地域・教育課題解決コース

ICT 活用・科学ものづくり推進系

森宮 里奈

本実践では、児童が疑問を生起できるようになることを目的とし、小学校第 6 学年の社会科歴史学習の実践を通して、つまずきをなくしていくための手立てを明らかにしていくことである。そのために、「縄文のむらから古墳のくにへ」、「貴族のくらし」、「武士の世の中へ」の小單元において実践し、児童が調べ学習や振り返りの際に記述した内容や事前事後アンケートをもとに、疑問を生起できたか、また疑問の質が変化したのかを分析した。

本実践を通して、疑問を生起するための 1 人 1 台端末を活用した他者参照や、授業実践の手立てを実践し、児童の疑問の記述やアンケート結果を分析することで、児童が疑問を生起できるようになったことがわかり、実践した手立ては一定程度効果があったと考えられる。また、疑問の質については、各評価項目で評価が上がった児童が増えた。また、事前事後のアンケート結果から、疑問を生起する力だけでなく、情報活用能力も育成されたことがわかった。